



第25講 特殊構文

倒置

① SO + 倒置

入試ではこう出る！

Q 次の英文の空所に入れるのに最も適切なものを選びなさい。

“I often forget to do my homework.”

“().”

(a) Do I so (b) Do so I

(c) I so do (d) So do I

前に肯定文があり、その後で「Sもまたそうである」と言いたい時には

so be S
SO 助 S

という形になり、be動詞を使うか助動詞を使うかは、その文の意味から考

えて、be 動詞を使う文なのか、be 動詞以外の一般動詞または助動詞を使う文なのかによって決まる。

(例文) so の後ろが倒置 (疑問文の形) になっていることに注意して読もう！

- He is tired, and so **am I (tired)**. ← I **am** also tired. から考える。
省略
(彼は疲れているし私も疲れている。)

- “I was Sakaki's girlfriend.”
“So **was I (his girlfriend)**.”
省略
← I **was** also Sakaki's girlfriend. から考える。
(私、坂木さんの彼女だったの。)
(私もよ。)

- “I saw ‘Titanic’ yesterday.”
“So **did I (see it yesterday)**.”
省略
← I also saw (= **did** + see) ‘Titanic’ yesterday. から考える。
(昨日『タイタニック』を見たんだ。)
(私も見たわ。)

- Mary has many tropical fish and so **do I (have many tropical fish)**.
省略
← I also have (**do** + have) many tropical fish. から考える。
(メアリーはたくさんの熱帯魚を飼っているし私も飼っている。)

● "I've been to America."

→ 倒置（疑問文の形）
"So **has** my sister (been to America)."

省略

← My sister **has** also been to America. から考える。

(俺、アメリカに行ったことがあるんだ。)

(俺の妹も行ったことがあるよ。)

● "I will be sixteen next year."

→ 倒置（疑問文の形）
"So **will** I (be sixteen next year)."

省略

← I **will** also be sixteen next year. から考える。

(俺、来年16歳になるんだ。)

(私もよ。)

もう解けるかな？

Q 次の英文の空所に入れるのに最も適切なものを選びなさい。

"I often forget to do my homework."

"()."

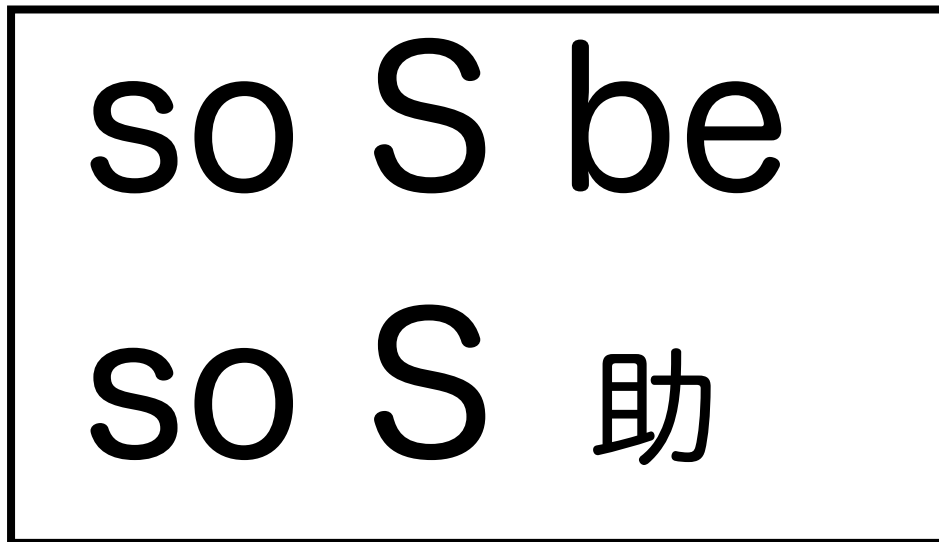
(a) Do I so (b) Do so I

(c) I so do (d) So do I

《警告！》

「～もまたそうである」という意味ではなく、「まったく～だ」

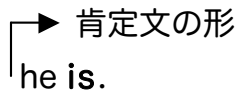
「本当に～だ」という意味を表わすときには、



という形が使われる。

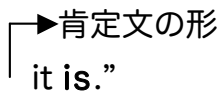
(例文) so の後ろが肯定文の形になっていることに注意して読もう！

- You said Mr. Sakaki **was** a very good teacher,

and so  he is.

(君は坂木先生はいい先生だって言ってたけど本当にいいね。)


- “Hey, your nose **is** bleeding.”

“So  it is.”

(おまえ鼻血出てるぞ。)

(ホンマや。)

- “Matsui looks like Godzilla.”

“So  肯定文の形
he does.”

(松井ってゴジラに似てるよね。)

(ホンマに似てるね。)

② neither (nor) + 倒置

入試ではこう出る！

Q 次の英文の空所に入れるのに最も適切なものを選びなさい。

I have never been abroad and () my parents.

(a) neither have (b) neither did

(c) neither has (d) so have

前に否定文があり、その後で「Sもまたそうでない」と言いたいときには、

neither (nor) be S

neither (nor) 助 S

という形になり、be動詞を使うか、助動詞を使うかは、その文の意味から考えて、be動詞を使う文なのか、be動詞以外の一般動詞、または助動詞を使う文なのかによって決まる。

《注意》

neither は副詞、nor は接続詞であるので、nor は接続詞のあとでは使わない。

(例文) neither や nor の後が倒置 (疑問文の形) になっていることに注意して読もう！

- You are not hungry, and neither **am I (hungry)**.
倒置 (疑問文の形)
省略

← I **am** not hungry, either. から考える。

(あなたはお腹が減っていないし、私も減っていない。)

- “My marks weren’t very good.”

“Neither (Nor) **were mine (very good)**.
倒置 (疑問文の形)
省略

← Mine **were**n't very good, either. から考える。

(私の点数はあまりよくなかったわ。)

(俺の点数もあまりよくなかったわ。)

- “That comedian is not funny at all. I don't like him.”

“Neither (Nor) **do I (like him)**.”
倒置 (疑問文の形)
省略

← I **don't** like him, either. から考える。

(あのコメディアンは、全然面白くないわ。私は嫌いです。)

(俺も嫌い。)

- “I've never been to Egypt.”


“Neither (Nor)  倒置 (疑問文の形)
have I (been to Egypt).”
省略

← I **have** never been to Egypt, either.から考える。

(私エジプト行ったことはありません。)

(私もないんです。)

- “I can't swim.”

“Neither (Nor)  倒置 (疑問文の形)
can I (swim).”
省略

← I **can't** swim, either. から考える。

(俺、泳げないんです。)

(私もです。)

もう解けるかな？

Q 次の英文の空所に入れるのに最も適切なものを選びなさい。

I have never been abroad and () my parents.

(a) neither have (b) neither did

(c) neither has (d) so have

③ 否定の副詞 + 倒置

入試ではこう出る！

Q 次の英文の空所に入れるのに最も適切なものを選びなさい。

() did I dream of marrying him.

(a) Ever (b) However (c) Why (d) Little

文頭の否定の 副詞（句・節）

+ 倒置

否定の副詞

- never 「決して～ない」「一度も～ない」
- little 「全く～ない」
- hardly 「ほとんど～ない」
- scarcely 「ほとんど～ない」
- rarely 「めったに～ない」
- seldom 「めったに～ない」
- nowhere 「どこにも～ない」
- neither 「そして…もまた～ない」
- nor 「そして…もまた～ない」や

否定の副詞句

no sooner	「…よりはやく～ない」
no longer	「もはや～ない」
not only	「～だけではなく」
by no means	「決して～ない」
under no circumstances	「決して～ない」
in no way	「決して～ない」
on no account	「決して～ない」
only then	「その時になって初めて」
at no time in my life	「私の人生で一度も～ない」
in no other city in Japan	「日本のほかのどんな町においても～ない」
in no other respect	「ほかのどんな点においても～ない」

否定の副詞節

not until S' V'...	「S'が V'してはじめて」
only when S' V'...	「S'が V'してはじめて」

が強調されて文頭にくると、その後ろは倒置形 (= 疑問文の形) になる。

(例文) 波線の部分が疑問文の形になっていることに注目して読もう！

- I have **never** seen such beautiful scenery **before**. [普通の形]

→ **Never before** have I seen such beautiful scenery. [倒置構文]

(そんなに美しい光景は見たことがない。)

- I **little** dreamed he would become a teacher. [普通の形]

→ **Little** 倒置（疑問文の形）
→ **Little** did I dream he would become a teacher. [倒置構文]

(彼が先生になるなんて夢にも思わなかった。)

- I had **scarcely** gone out when it began to rain. [普通の形]
hardly before

→ **Scarcely** 倒置（疑問文の形）
→ **Scarcely** had I gone out when it began to rain. [倒置構文]
Hardly before

(私が外へ出るや否や、雨が降り始めた。)

- I had **no sooner** gone out than it began to snow. [普通の形]

→ **No sooner** 倒置（疑問文の形）
→ **No sooner** had I gone out than it began to snow. [倒置構文]


(私が外へ出るや否や、雪が降り始めた。)

- Rie **no longer** loved him. [普通の形]

→ **No longer** 倒置（疑問文の形）
→ **No longer** did Rie love him. [倒置構文]


(彼女はもはや彼を愛していなかった。)

- I have **never** been as busy as I am today **in my life**. [普通の形]

→ **Never in my life**  倒置（疑問文の形）
have I been as busy as I am today. [倒置構文]

(私の人生で今日ほど忙しいときはなかった。)


- I didn't receive the letter **until yesterday**. [普通の形]

→ **Not until yesterday**  倒置（疑問文の形）
did I receive the letter. [倒置構文]

→ It was **not until yesterday** that I received the letter. [強調構文]

(昨日になってやっと私はその手紙を受け取った。)

- I didn't realize that I had left my umbrella **until I got home**.
[普通の形]

→ **Not until I got home**  倒置（疑問文の形）
did I realize that I had left my umbrella.
[倒置構文]

→ It was **not until I got home** that I realized that I had left my
umbrella.

[強調構文]

(家についてはじめて傘を置き忘れてきたことに気付いた。)

- We only realize the value of health when we are taken ill.

[普通の形]

→ Only when we are taken ill do we realize the value of health.
[倒置構文]

▶ 倒置（疑問文の形）

→ It is only when we are taken ill that we realize the value of health.

[強調構文]

(私たちは病気になってはじめて健康のありがたみがわかる。)

《注意1》

until (till) は前置詞の用法と接続詞の用法と両方の使い方があるので、後ろに名詞がきたり（例えば、until yesterday ） 、完全な文がきたりする（例えば、until I got home ）。

《注意2》

not until の構文と only when の構文は倒置構文だけではなくて強調構文としてもよく出題される。

もう解けるかな？

Q 次の英文の空所に入れるのに最も適切なものを選びなさい。

() did I dream of marrying him.

(a) Ever (b) However (c) Why (d) Little

④ CVS

入試ではこう出る！

Q 次の英文の空所に入れるのに最も適切なものを選びなさい。

His surprise was () that he could hardly speak.

(a) such (b) so (c) big (d) enough

第2文型 (SVC) において、補語が強調されて文頭に出されると、

C be S.

(V が be 動詞のとき)

C 助 S V.

(V が一般動詞のとき)

という形になる。

(例文) SVC の C が文頭に出ると、後ろが倒置になることに注意して読もう！

● Nancy is so rich [that she can buy anything].

S V C

→ So rich is Nancy [that she can buy anything].

C V S

(ナンシーはとても金持ちなので何でも買える。)

● Christy was so surprised [that she couldn't speak].

S V C

→ So surprised was Christy [that she couldn't speak].

C V S

(クリスティーはとても驚いたので口がきけなかった。)

● The fact that he refused our offer was more surprising.

S V C

→ More surprising was the fact that he refused our offer.

C V S

(さらに驚くべきことに彼は私たちの申し出を断わった。)

- Her surprise was such [that she couldn't speak].

S V C

→ Such was her surprise [that she couldn't speak].

C V S

(意訳 彼女は非常に驚いたので、口がきけなかった。)

←直訳 彼女の驚きは口がきけないほどのものだった。

- His eloquence was such [that I felt like believing him].

S V C

→ Such was his eloquence [that I felt like believing him].

C V S

(意訳 彼は非常に雄弁だったので彼の言うことを信じたい気になった。)

←直訳 彼の雄弁さは私が信じたくなるほどのものであった。

もう解けるかな？

Q 次の英文の空所に入れるのに最も適切なものを選びなさい。

His surprise was () that he could hardly speak.

(a) such (b) so (c) big (d) enough

⑤ OSV

第3文型（SVO）において、目的語が強調されて文頭にくると、

OSV.

という形になる。

(例文) Oが強調されて文頭に出ていることに注意して読もう！

● The air around us we take **移動** for granted.
O S V O M

(私たちの周りにある空気を、私たちは当然のことと考えている。)

《注意》

OSVの構文を訳するときには目的語を先に訳す。

《警告》

- ① The air around us we take for granted.
- ② The air around us we take for granted cannot be found on other planets.

この2つの文を比べてほしい。

①の文は(例)で書いたとおりOSVの倒置構文であるが、②の文はそれに、さらにcannot be foundという述語がついている。このようにOSVの後ろにさらにVが続くような場合は、OSVの倒置構文ではなくて、

The air around us <(which) we take **移動** for granted >cannot be found

S M O' S' V' O' M' V

on other planets.

M

(私たちが当然のことと考えている空気は、ほかの惑星ではみられない。)

という関係代名詞の目的格 which (または whom)が省略された関係代名詞節が主語を修飾している形である。

⑦ SVM2M1

本来は SVM1M2 と並ぶべきものが、M2 が短く M1 が長い場合、逆転して、



となることがある。

(例文) 長いM1が短いM2の後ろに回っていることに注意して読もう！

- The pretty twins are so much different in character from one another.

S V C M2 M1

(そのかわいい双子はお互いに性格が大きく異なっている。)

強調の構文

① 肯定文の強調構文

入試ではこう出る！

Q 次の英文の空所に入れるのに最も適切なものを選びなさい。

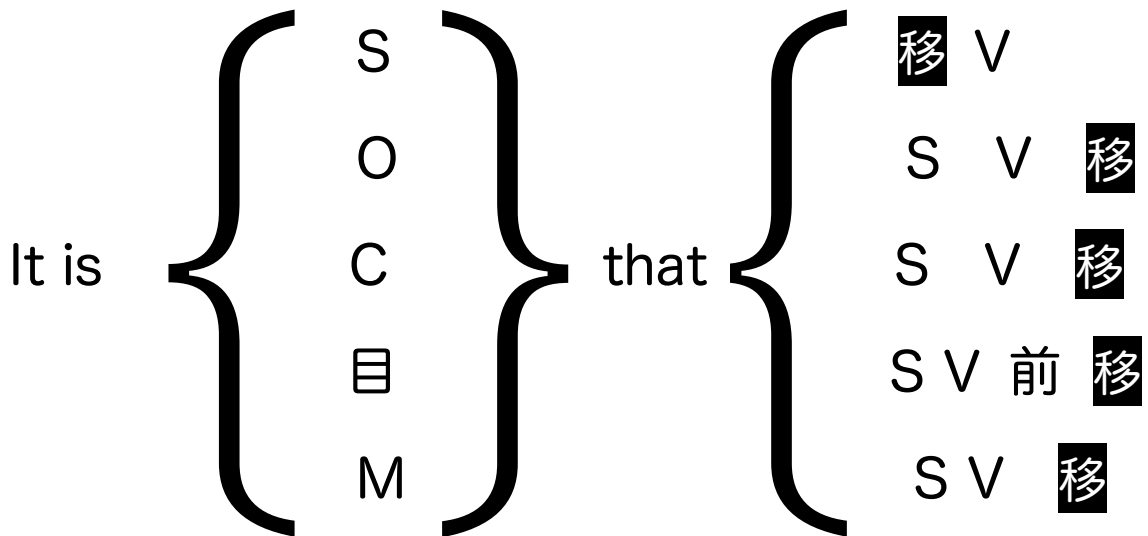
It was not until she had arrived home () she remembered her appointment with the professor.

(a) that (b) when (c) where (d) which

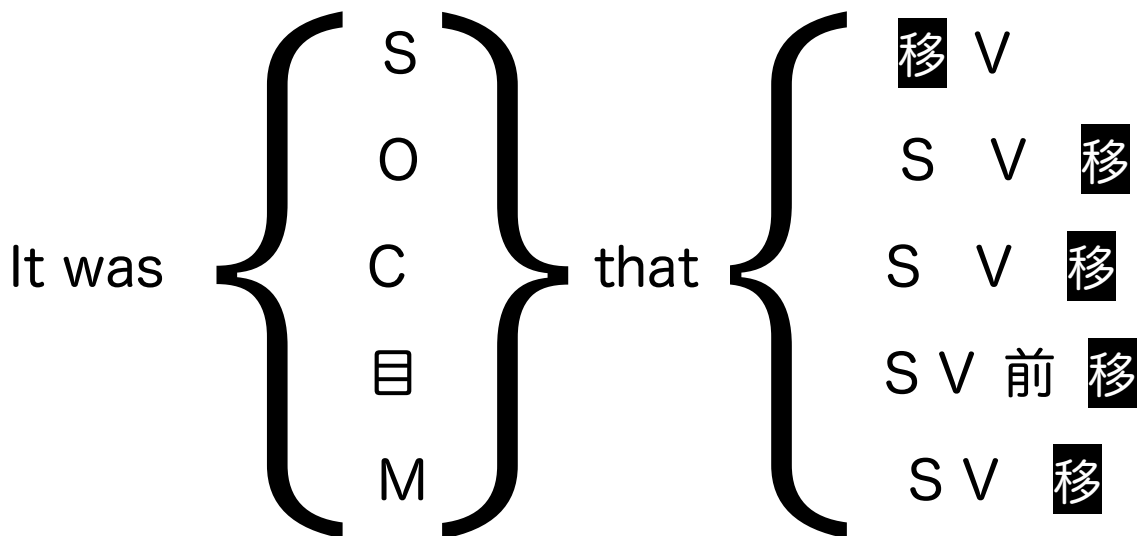
強調構文というのは、必ず元になる文があり、元になる文の動詞が現在形であれば、通常その文の中で強調したい部分を It is と that の間にはさみ、元になる文の動詞が過去形であれば通常その文の中で強調したい部分を It was と that の間にはさむ。

※強調できるのは、名詞 (S, O, C, 目) と副詞 (M) である。

V が現在形の場合 「～なのは・・・である」



V が過去形の場合 「～なのは・・・だった」



(例文) 強調される部分が、挟まれることに注意して読もう！

元の文

Columbus discovered America in 1492.

S V O M

(コロンブスは1492年にアメリカを発見した。)

① 主語の Columbus を強調

- It was Columbus that (who) **移動** discovered America in 1492.
- S S V O M

(1492年にアメリカを発見したのはコロンブスだった。)

* 主語が強調された場合は、that の代わりに who (主語が人の場合) や which (主語がものの場合) がよく使われる。

② 目的語の America を強調

- It was America that (which) Columbus discovered **移動** in 1492.
O S V O M

(1492年にコロンブスが発見したのはアメリカだった。)

*物が強調された場合は、that の代わりに which が使われることもある。

③ 修飾語の in 1492 を強調

- It was in 1492 that Columbus discovered America **移動** .
M S V O M

(コロンブスがアメリカを発見したのは1492年だった。)

以上の例を見ればわかるように、強調構文の訳し方は、大体決まっております。

「～のは・・・である(だった)。」

that の後ろ

It is(was)の間に挟まれた物

と訳す。

さらに、強調構文の特徴は、

It was (is) と that (who, which) を外して
適当に並び変えれば、完全な文（元の文）が
できる

ということである。

例えば、

It is this temple that I have long wanted to visit.
(私が長いあい間、訪れたかったのはこのお寺なのです。)

という強調構文であれば、It is と that を外すと、
this temple , I have long wanted to visit
となり、this temple を visit の後ろに置けば、
I have long wanted to visit this temple.
という完全な文が出来上がる。それに対して、

It is natural that he is feeling down.
(彼の気分が沈んでいるのも当然だ。)

という形式主語構文であれば、It is と that を外すと、
natural , he is feeling down
となり、natural を he is feeling down のどこに入れても文章は成り立たない。

元の文

I have been looking for this watch.

S V 前 目

(私は、この腕時計をずっと探していました。)

前置詞の目的語の this watch を強調

● It is this watch that I have been looking for **移動** .

目 S V 前 目

(私がずっと探していたのはこの腕時計です。)

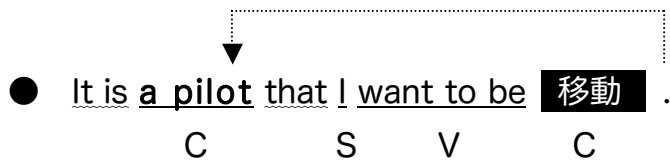
元の文

I want to be a pilot.

S V C

(私は、パイロットになりたい。)

補語の a pilot を強調



(私がなりたいのはパイロットなのです。)

元の文

I am angry because you were late.

S V C M

(あなたが遅れたから、私は怒っているのです。)

修飾語の because you were late を強調



(私が怒っているのはあなたが遅れたからです。)

元の文

Not quantity but quality counts.

S

V

(量ではなく、質が大切だ。)

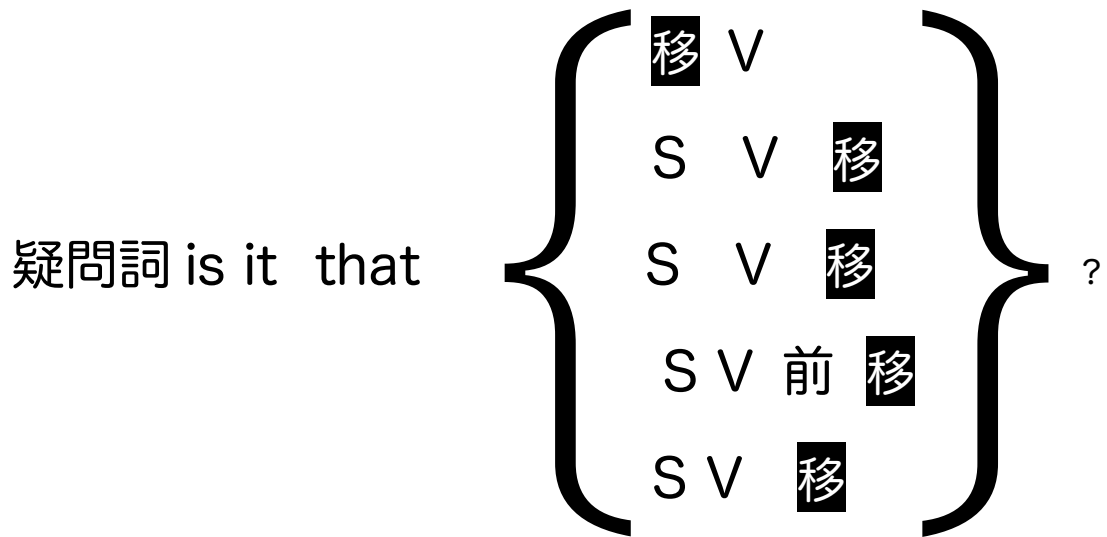
主語の Not quantity but quality を強調

- It is not quantity but quality that **移動** counts.
S S V

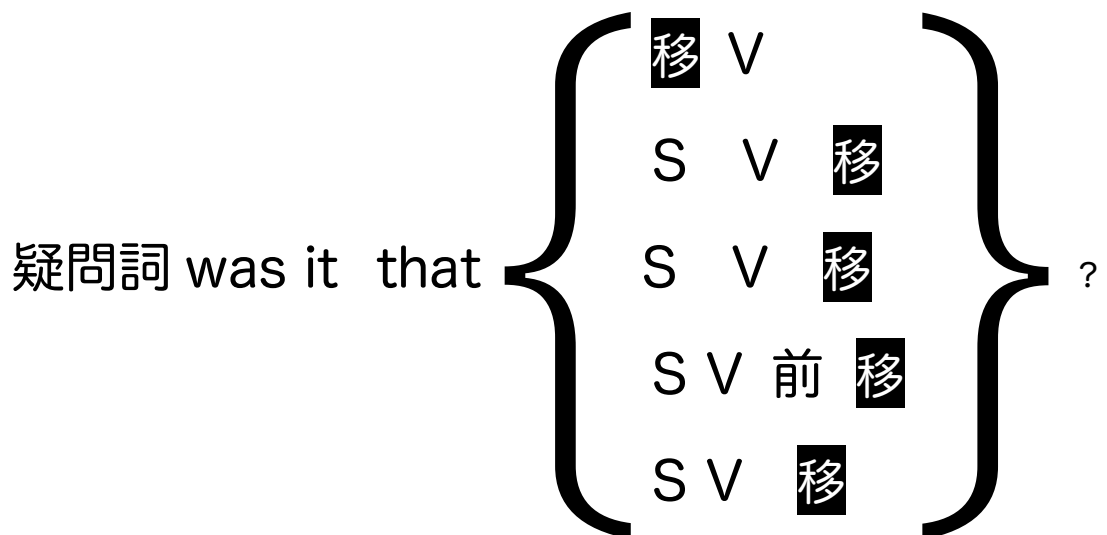
(大切なのは量ではなく質です。)

② 疑問詞の強調構文

V が現在形の場合 「～なのは・・・ですか」



V が過去形の場合 「～なのは・・・でしたか」



(例文) 疑問詞が強調されていることに注意して読もう！

- It was Columbus that **移動** discovered America in 1492.
S S V O M
(1492年にアメリカを発見したのはコロンブスだった。)

→ Who was it that **移動** discovered America in 1492?
S S V O M
(1492年にアメリカを発見したのはだれでしたか。)

- It was America that Columbus discovered **移動** in 1492.
O S V O M
(1492年にコロンブスが発見したのはアメリカだった。)

→ What was it that Columbus discovered **移動** in 1492?
O S V O M
(1492年にコロンブスが発見したのは何でしたか。)

● It was in 1492 that Columbus discovered America **移動** .
M S V O M
(コロンブスがアメリカを発見したのは1492年だった。)

→ When was it that Columbus discovered America **移動** ?
M S V O M
(コロンブスがアメリカを発見したのはいつでしたか。)

もう解けるかな？

Q 次の英文の空所に入れるのに最も適切なものを選びなさい。

It was not until she had arrived home () she remembered her appointment with the professor.
(a) that (b) when (c) where (d) which